

(2)講義  
 ア「少林寺拳法指導者の在り方」  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 会長 川島一浩  
 イ「少林寺拳法の学科指導法について」  
 学科指導委員会 須田剛  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 合田雅彦  
 ウ「少林寺拳法の教えについて」  
 学科指導委員会 須田剛  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 小井寿史  
 エ「運営上の危機管理について」  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 振興普及部 部長 大原一純  
 (3)講義及び実技  
 ア「中高における体育、部活指導の安全管理について」  
 全国高体連少林寺拳法専門部中央競技向上委員会 福家健司  
 イ「技術指導法Ⅰ」(剛法) (部活・授業)「基本諸法の確認と突き蹴りの指導法」  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 会長 川島一浩  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 合田雅彦 小井寿史  
 ウ「技術指導法Ⅱ」(柔法) (部活)「柔法技の原理と指導法」(授業)「指導と評価のポイント」  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 会長 川島一浩  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 合田雅彦 小井寿史  
 エ「技術指導法Ⅲ」(部活)「安全かつ効果的な運用法修練」(授業)「安全管理、発展的な学習①」  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 中島正樹 小井寿史  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 本部指導員 荒井章士  
 オ「技術指導法Ⅳ」(部活)「修練課程としての演武指導」(授業)「安全管理、発展的な学習②」  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 会長 川島一浩  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 中島正樹 小井寿史  
 カ「技術指導法Ⅴ」(部活)「指導法のまとめ」(授業)「評価規準の確認」  
 一般財団法人 少林寺拳法連盟  
 会長 川島一浩  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 合田雅彦 小井寿史

員会 合田雅彦 小井寿史  
 員会 合田雅彦 小井寿史  
 (4)講義討議  
 (部活)「魅力ある指導者とは」(授業)「少林寺拳法を授業実施するための課題とは」  
 学科指導委員会 須田剛  
 中学校武道必修化プロジェクト委員 中島正樹  
 7 日程 (別表)  
 8 問い合わせ先  
 一般財団法人少林寺拳法連盟 振興普及部 担当…谷聡士、秋元宏介  
 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-59  
 TEL・0877-3312020  
 FAX・0877-5616022  
 E-mail  
 shinko-fukyuu@shorinjikempo.or.jp

日程

	9:00	11:00	14:00	15:40
8月23日(第1日)	8:30 資料渡し 受付 開講式	9:20 解説	10:50 講義実技ア	13:50 講義実技イ
8月24日(第2日)	8:45 諸連絡等 鎮魂行	9:30 講義実技ウ	10:50 講義ウ	14:50 講義実技オ
8月25日(第3日)	8:45 諸連絡等 鎮魂行	9:30 講義実技カ	10:50 講義工	12:30 閉講式

# 武道授業 実践の概要紹介

## 菊池市における剣道授業実践紹介

菊池市は、熊本市から約25km北上した熊本県の北東部に位置し、東に鞍岳を主峰とした阿蘇外輪山の山々、北にはひととき高くそびえ立つ八方ヶ岳を望み、北東の丘陵地帯から東西に流れる菊池川とほぼ南西に流れる迫間川によって形成された平野部を中心としています。

7世紀後半、九州防衛のための古代山城の一つ、鞠智城が築かれ、菊池市にある「隈府」は、早くも平安時代の和名抄にその名が出てきますが、本格的に城下町に様相を整えたのは、延久2年(1070年)藤原則隆が、菊之池(深川)に居住し、菊池の姓を名乗り、やがて本城を守山城(現菊池神社)に構えてからであると言われています。江戸時代には、穀倉地帯として知られ、菊池米(肥後米)は最高品種とされていました。

昭和29年に温泉が発掘され、温泉郷として活気を帯び、昭和33年の菊池市発足後は、農村部もビニールハウスを利用した花やいちごの栽培、ごぼうの生産が盛んになり、農業と観光が市の産業として栄えてきました。平成17年3月22日には市町村合併(菊池市・七城町・旭志村・泗水町)が行われ、新菊池市が誕生し、今後の発展の両輪として「癒しの里 きくち」を目指していく新しい郷土づくりが行われています。

また、スポーツにおいては剣道が盛んな地域で、菊池郡市の中体連予選では毎年激戦の地区となっています。平成28年度は、菊池南中学校男子団体が熊本県代表として全国中学校剣道大会に出場し、ベスト8の成績を残すことができました。



南北朝時代の武将、菊池武光公の騎馬像

菊池市教育委員会

4. 単元の指導計画及び評価計画

次 時	主な学習活動	評価の観点			評価基準(方法)	言語活動計画	
		関	思	技			
	関心・意欲・態度	武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配り学習に取り組もうとしている。					
	思考・判断	技を身につけるための運動のおこないのポイントを見つけている。課題に応じた練習を選んでいる。					
	技能	基本動作を用いて、相手との間合いのかけひきの中から攻防を展開できる。					
	知識・理解	剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解している。					
1 (はじめ)	1	○オリエンテーション ・礼法、剣道の歴史、特性、道具の名称、授業のきまり	○	○	○	知 剣道の特性や成り立ち、基本動作や基本となる技の名称、関連して高まる体力について、言ったり書き出したりしている。(観察・学習カード) 関 礼儀作法を正しく理解し、実践しようとしている。(観察・学習カード)	言語活動① 学習計画作りの場面で、自分の考えを明確に伝えること、友達のことを理解することで、学習意欲を向上させる。【話す聞く言語活動】
	2	○基本動作 ・スキルウォームアップ習得、素振り、構え、足さばき、垂胴装着			○	技 構え、足さばき、体さばきの基本動作を正しく行うことができる。(観察)	
	3	○基本技術の練習① ・基本打ち(面、小手、胴)、面・小手表着	○		○	関 剣道具の準備、後片付けを意図的に行うことができる。(観察) 知 基本打突のポイントを理解し言ったり書き出したりしている。(観察)	言語活動② 技能のポイントを理解させ、お互いにより具体的なアドバイスが出来るようにする。【話す聞く言語活動】
	4	○基本技術の練習② ・面・小手表着、基本打ち(面、小手、胴)	○	○		関 相手を尊重した態度で、協力して練習している。(観察) 思 基本打突のポイント伝えたり、身につけるための練習をしている。(観察・学習ノート)	
	5	○基本技術の練習③ ・基本打ち二段の技(小片面、面胴)、引き技(引き面、胴)			○	技 基本動作から基本打突ができる。(観察)	言語活動③ 学習のまとめの場面で、友達の良さががらばり認め合うことで、豊かなかわり合いを持たせる。【話す聞く言語活動】
	6	○基本技術の練習④ ・約束稽古、自由練習	○	○		関 積極的に話し合いに参加し、仲間の学習を援助しようとしている。(観察) 思 課題や自分の特徴に応じた技の練習を行っている。(観察・学習シート)	
	7	○技のきばえを競う判定試合 ・約束稽古の技のきばえを競う判定試合		○	○	知 判定基準を理解している。(観察・学習カード) 思 判定後に仲間の良いところを評価し伝えることができる。(観察)	言語活動④ 学習シートに、自分や友達、チームの動きを具体的に振り返らせることで、動きのポイントを次の授業につなげる。【書く言語活動】
	8	○応じ技術の習得① ・抜き技(面抜き胴)、自由練習		○	○	思 グループでの教え合いの場面で仲間の良い動きを指摘している。(観察・学習カード) 技 タイミングをとらえて打つことができる。	
	9	○応じ技術の習得② ・抜き技(小手抜き面)、自由練習		○		思 小手抜き胴を身につけるためのポイントを見つけている。(観察・学習カード) 思 自分に合った応じ技を選択し練習している。(観察・学習カード)	
	10	○試合練習① ・審判法、グループごとに試合		○	○	技 相手の動きに応じた動きができる(観察) 知 簡易な試合におけるルール、審判方法を言ったり、書き出したりしている。(学習カード・観察)	
	11	○試合練習② ・審判法、グループごとに試合	○	○		技 相手の動きに応じた動きを行い、技を出すことができる。(観察) 関 自分の役割を果たし、相手を尊重した態度で参加している。(観察)	言語活動⑤ 単元のまとめで、自分やチームの伸びを分析・評価し、分かったこと、できたことを整理し、単元での学び方について自己評価させる。【書く言語活動】
	12	○試合① ・個人戦		○		思 自分の特徴や相手に応じた作戦を立てる(観察・学習カード) 知 簡易な試合におけるルール、審判方法を言ったり、書き出したりしている。(学習カード・観察)	
	13	○試合② ・団体戦	○	○		関 成功、失敗にかかわらず、仲間を賞賛したり励ましたりしようとしている。(観察) 技 学習したことを活かして、試合を行うことができる。(観察・学習カード)	

図2 剣道単元計画

「剣道授業の展開」を参考にし、次の三つのことについて工夫を行いました。

一つ目に、オリエンテーションを重視しました。剣道を行っていく際に重要になってくるのは、伝統的な考え方や行動の仕方を身につけさせることです。剣道理念が「剣の理法の修練により、人間形成の道である」ということや、相手を尊重する態度の大切さを理解させ、礼法指導を行っていきました。

二つ目に、学習の見直しを持たせるために単元計画(次頁図3参照)を配布し、毎時間の学習のポイントを理解させた上で授業を行うことにしました。学習活動を明確化することで、技能と知識の結びつきや思考の質の高まりを期待しました。

三つ目に、剣道の練習では基本を重視するため、反復練習を多く入れる傾向がありますが、反復練習を少なめに設定し、試合形式を1時間の中で、できるかぎり入れ

1 はじめに

菊池郡市は、(菊池市・合志市・菊陽町・大津町)四つの市町からなり、12校の保健体育の教師が、菊池郡市中学校体育研究会という組織をつくり授業研究を行っています。そこでは、平成24年の武道必修化に伴い、武道の授業について研究を行ってきました。菊池郡

市は特に剣道の盛んな地域ということもあり、39人の体育教師のうち9名が剣道専門となります。平成28年度には熊本県中学校体育研究会の指定を受けて、サッカークロスの研究発表を行いました。今回はその内容を紹介します。

2 研究の主題

研究主題を「楽しさと喜びを実感し、自主的に運動に取り組む生徒の育成」(思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりを通して)としました(図1参照)。

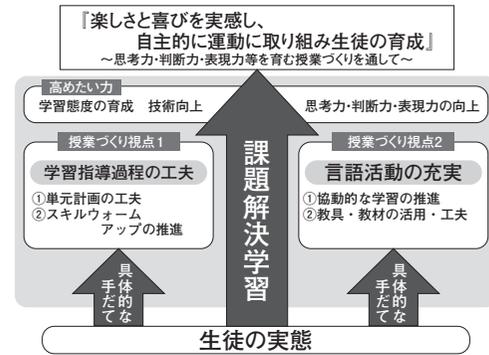


図1 研究構想

(一)授業づくりの視点1  
学習過程の工夫

①単元計画の工夫

菊池郡市の学校の中でも、1年生だけ剣道をする学校、1・2年生両方で剣道をする学校があるため、1年生の単元計画、2年生の単元計画と2学年分を作らず、13時間の単元計画を作成しました。1学年だけで剣道をする学校は、それをもとに、13時間を1年間で

②単元計画の工夫

菊池郡市の学校の中でも、1年生だけ剣道をする学校、1・2年生両方で剣道をする学校があるため、1年生の単元計画、2年生の単元計画と2学年分を作らず、13時間の単元計画を作成しました(次頁図2参照)。その単元計画を基に学習カードや評価基準を作成し、共通した実践を行えるようにしました。単元計画を作成する時には、全日本剣道連盟が出版している中学校武道の必修を踏まえた

3 研究の視点

授業づくりの視点1

学習過程の工夫

- ①単元計画の工夫
- ②スキルウォームアップの推進

授業づくりの視点2

言語活動の充実

- ①協動的な学習の推進
- ②教具・資料の活用・工夫

4 研究の実際

行い、2学年にわたって授業を実施する学校は、7時間を1年生で行い、残りを2年生で行うようにすることで、統一した単元計画を作成することができました(次頁図2参照)。その単元計画を基に学習カードや評価基準を作成し、共通した実践を行えるようにしました。単元計画を作成する時には、全日本剣道連盟が出版している中学校武道の必修を踏まえた

抗を感じるのではと心配しました。内容を判定試合、簡易試合を入れて定着を確認し、意欲を高めることにしました。判定試合を入れることにより、判定の理由などを試合者に説明することで、話し合い活動も活発になりました。

②スキルウォームアップの推進  
スキルウォームアップとは、学習過程の「つかむ」において、単元の特性に応じて関連して高める体力要素を考慮し、主運動につながる運動のことです。菊池郡市は剣道だけでなく、他の種目についても作成し年間を通じて行っています。音楽を用いてリズムカルに動くことで、より運動強度を上げ、ケガの防止や体力・技能の向上を図りました。音楽に合わせて、準備運動、補強運動、スキルウォームアップと行います。剣道のスキルウォームアップの内容は、スキップ・前進後退・左右すり足・跳躍素振り・胴打ちです。剣道の授業で音楽を使うことに抵抗を感じるのではと心配しました

が、実際に行ってみると、周りから音楽が聞こえると声を出しやすさという意見がでてきました。音楽に合わせて準備運動を行うことで、運動量も確保でき、技能習得にも役立ちました。

(二)授業づくりの視点2  
言語活動の充実  
①協働的な学習の推進  
課題提示については、生徒の実態に応じて、分かりやすい言葉で提示し、教え合い活動の質を高めるために、つまずくポイントなどの視点を明確に伝え、生徒同士の教え合いが行われるようにしました。技術に関しては、ポイントとキーワードをそれぞれ提示しました。「学習言葉」を毎時間の授業の中にいれ、その言葉を使って話し合い活動を活発にさせました。「学習言葉」とは、菊池郡市中学体育研究会で共通理解している言葉です。その言葉をかけ合うことで、その時間の技能のポイントが分かり、そのポイントを意識させ

るためのものです。面抜き胴の学習言葉を何にするのかを剣道専門の先生方を含め、話し合いました。先生方からは、「抜き胴は打ってきたところを打つのではなく、攻めて相手に面を打たせて、そこを打つ技なので、打つ前の攻防が大事ではないか」という意見がでました。しかし、「体育の授業では、レベルが高すぎて難しい」という意見もできました。他にも、体育の授業では、「打ち方、特に竹刀の動かし方を注意して打つ方がよいのではないか」や「バーンと音にこだわって、音が出る打ち方をするにはどうすれば良いかを考えさせて打てばいいのではないか」などの意見が出ました。専門の先生の中でも、何に重点を置いて指導していくのかなどの意見が分かれました。

1年間研究授業を重ねていくと、面抜き胴の特性として、相手が打ってくることを打つということに重点を置くべきということになり、「タイミング」や抜くときにかわす「技術」が必要というところで「右足」という学習言葉にしました。毎時間の学習言葉についても考え、その言葉を使って教え合い活動を行うようにしました。

②教具・資料の活用・工夫  
抜き胴のタイミングをどのようにするかということ、悩みました。剣道を経験している人は、相手が打ってくるだろうというタイミングを、なんとなく感じることもできます。しかし、剣道の経験のない中学生に教えるためには、具体的に示す必要があります。そこでビデオを撮り、視覚的に捉えさせました。そして、胴を打ち始めるタイミングを「竹刀が上がり始める瞬間」としました。菊池郡市の剣道専門の先生に良い例と悪い例を演じてもらいました(次頁図4参照)。それを動画で作成し、視覚教材とし、「A」の竹刀が上がりに始めるタイミングで打ち始めた例、「B」のタイミングが遅れた

剣道(武道)単元学習計画

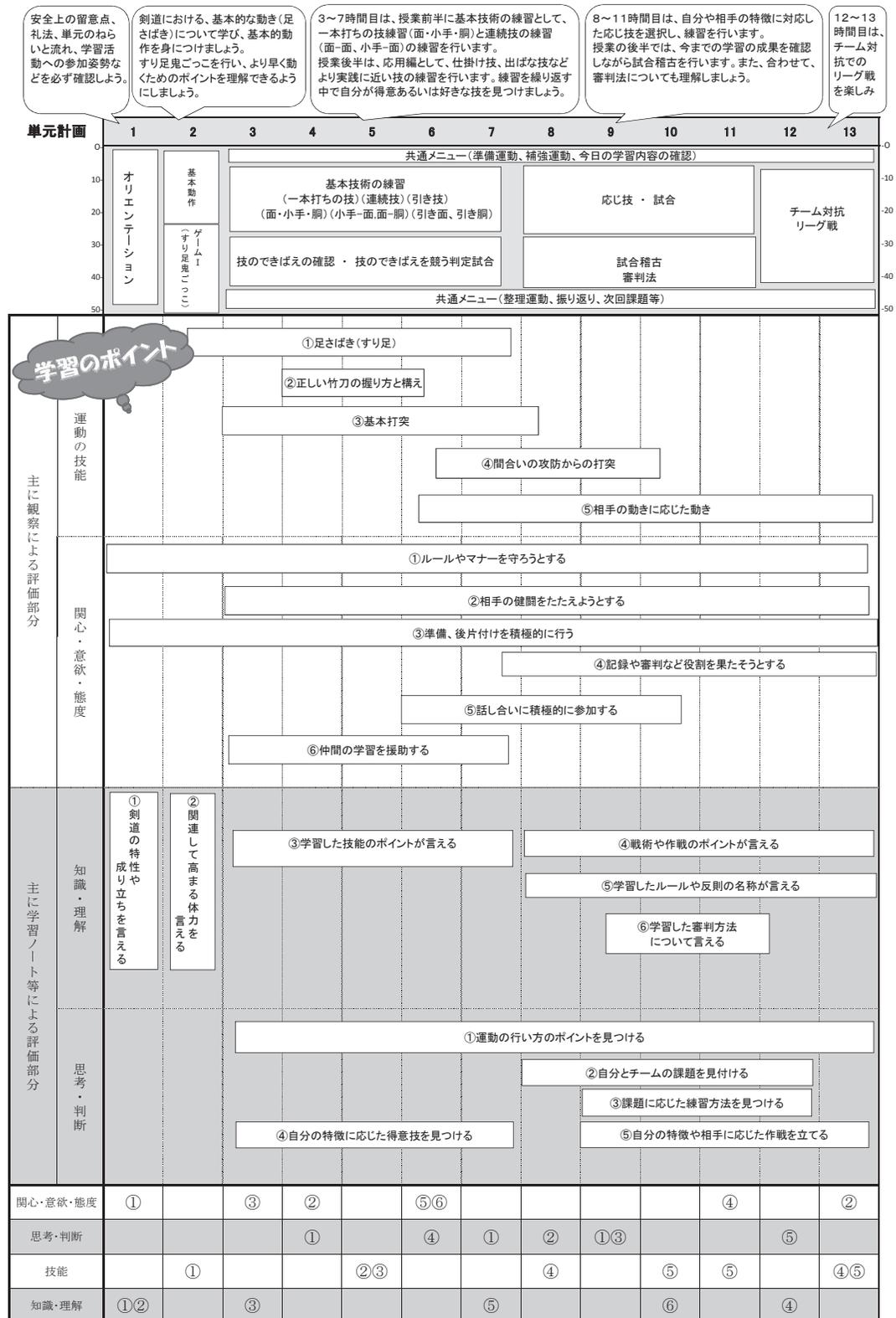


図3 生徒配布用単元計画

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

タイミングを捉え、「面抜き胴」を打つことができる。(技能)

・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を身につけている。(思考・判断)

(2) 本時の展開 (8/13)

※アルファベットは菊池郡市中体研紀要に基づく

過程	時間	学習活動	学習形態	○教師の支援及び評価	備考
つかむ	10分	※始業前に垂と胴を装着してチャイムを待つ。 1 挨拶・健康観察をする。 2 準備運動 スキルw-up+基本動作 ①スキップ ②前進・後退・左右すり足 ③跳躍素振り ④胴打ち	一斉 グループ	○安全に正しく装着できているか確認する。 ○全員で安全に留意しながら準備を素早く行わせる。 ○見学生への配慮を行う。 ○事前に学習した「基礎運動」であることを理解させる。(A) (D) ○楽しみながら基本に忠実に行わせ、基本技能を体得させる。 ○大きな発声することで技能向上と回数の確認を行わせる。(I)	竹刀 剣道具 音楽
深める	20分	めあて 「面抜き胴」を打てるようになろう！ 3 本時のねらいと学習内容を確認し、面を装着する。 4 前時までの復習をする。「面打ち」「胴打ち」を稽古する。 5 「面抜き胴」の模範演技を見て、ポイントをつかむ。 6 「面抜き胴」を稽古する。 7 タイミングを捉えて面抜き胴を打つためにどうすればいいか発表しあう。	一斉 グループ	○本時のめあてを確認させる。 ○指導言葉を使って、全員が理解できるようにする。(F) ○素早く正確に装着させる。 ※見学ができれば手伝わせる。 ○懸かり手は、気迫を込めて正確に打突させ、元立ちは、「右」の足裁きを使って正確に打突させることで、「面抜き胴」につなげる。 ○模範演技をし、イメージをつかませる。(J) 【本時の学習言葉】 タイミング (相手の竹刀が上がった瞬間) 右足 (大きく右側に出す) ○どのようにしたら「面抜き胴」が打てるのかを考えて稽古させる。 ○手立ての必要な生徒にタブレットを活用して、技能を向上させる。(E) (H) ○教師と生徒でポイントについて共通理解を図る。 【予想される生徒の言葉】 タイミング：相手の竹刀が上がった瞬間を捉える。相手が動いた瞬間に打ち出す。 右足：大きく右側に出す。相手の竹刀が上がった瞬間に素早く動かす。	揭示① 揭示② 揭示③ 揭示④ 大型モニター タブレット 揭示⑤
広げる	15分	8 「面抜き胴」の判定試合をする。 【ルール】 ・4人一組で行い、2名が試合、2名が審判とする。 ・面抜き胴をお互いに1回ずつ行い判定を行う。 ・判定の結果について話し合う。 ・話し合いをうけてもう一度判定試合を行う。	グループ	○班の中で判定試合をして、ポイントを理解させながら、技能を高めさせる。(B) (C) 【A評価】 相手が面を打ち込もうとする瞬間を捉えて、胴を打つことができる。(技能) 【B評価】 相手が面を打ってきたところを、胴を打つことができる。(技能) 【B評価】 グループでの教え合い場面で仲間の良い動きを指摘している。(思考・判断) 【B評価に達しない生徒の手立て】 学習資料を提示して、技能のポイントを明確に伝える。(技能)	チェックカード
まとめる	5分	9 本時のまとめを行う。 ・本時の成果と課題 ・次時の説明 ・挨拶	一斉	○仲間(グループ)で良かった点や課題等を出し合わせ認め合う雰囲気作りに努める。 ○本時の目標に向けての学習の成果と課題を発表させる。(G)	揭示⑥

図6 授業展開案

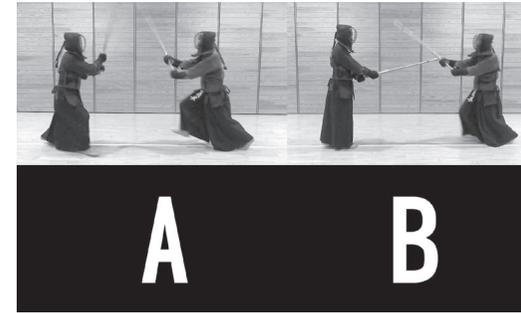


図4 面抜き胴タイミング



図5 右足の使い方

例として、通常の早さ、スローモーション、超スローモーションと編集し、その違いを見せて、タイミングを捉えさせるようにしました。次に「右足」についての指導を行いました。抜き胴を打つためには、右足を右斜め前に大きく出さなければなりません。右足が出ない理由を考えると、面の踏み込みと胴の足さばきが一緒になっていないために遅れてしまうのではないかと考えました。そこで、ジャー

ジ姿で足の動きがわかるように動画を撮影しました(図5参照)。「A」が良い例で「B」が足を上げて、踏み込んで打とうとしてしまっただけです。この二つの例を見て、面抜き胴の授業を行いました。参観された先生方からは、何が良く何が悪いのかが視覚的にはっきり分かったので、理解しやすかったなどの意見をいただきました。他にも、教材教具の工夫として、間合いを分からせるために、

5 おわりに

竹刀に赤いテープを巻き、赤いテープ同士が交わる距離を打ち間として、捉えさせました。また、剣道具の付け方の工夫として、今回、剣道の授業研究を行いました(次頁図6参照)。剣道を経験している人は、感覚で分かる部分があります。しかし、それを経験したことのない人に分かりやすく伝えるためには、どのようにしなければならぬかを考える必要がありました。剣道の専門が多い菊池郡市で面抜き胴の打ち方について話し合いを進めていくなかで、ポイントの捉え方が教える人によって違うことを改めて感じました。抜き胴の打ち方やタイミングが指導者によって違っていましたが、協議を進めていくなかで、中学生にどのように指導していくかを

きりさせることができました。今回は、面抜き胴を中心にして、考えていきましたが、今後、他の技についても、考えていきたいと思っています。動画を使い課題をはっきりさせたことで、教え合いのポイントが明確になり、教え合い活動が活発になりました。教え合い活動が活発になったことで、技能の向上が見られました。今後も、言語活動が活発になるような授業づくりを行い、生徒が自ら考え、教え合いの中で、剣道の楽しさが味わえるようにしていきたいです。

# 第2学年1・2組保健体育科学学習指導案

日時：平成28年11月25日（金）  
 場所：菊池市立旭志体育館  
 指導者：合志市立西合志南中学校 教諭 北田 勇正

## 1 単元名 武道 「剣道」

### 2 単元について

(1) 単元観  
 ① 一般的特性  
 剣道は、竹刀を使って基本となる技や得意技を用いて、相手と攻防を展開しながら互いに有効打突を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。構えや体さばき、基本打突の仕方や受け方を関連づけて一連の動きとして身に付けることに配慮するなど、対人的技能と一体的に扱う必要がある。また、剣道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすること

② 生徒からみた特性  
 普段から接することが少なく、中学校で初めて学習する内容であり、ほとんどの生徒が未経験の単元である。かっこいい、自分から打った技で一本が取れたとき、など肯定的なイメージを持っている。一方で、痛い、上手にできないという否定的なイメージも持ち合わせている。

### (2) 系統観（下図）

## 系 統 観

中学1、2年生（※必修）

中学3年生（※学校の状況によって実施）

【武道】	
ア 柔道	
イ 剣道（本校選択）	
ウ 相撲	
※ア～ウから選択	
相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開することができる。	
<1年次既習項目>	
構え	相手の動きに応じて自然体で中段の構え
足さばき	相手の動きに応じて歩み足や送り足
基本打突	面や胴（右）や小手（右）
<2年次>	
しかけ技	二段の技（小手一面、面一胴）
	引き技（引き面、引き胴）
応じ技	抜き技（面抜き胴、小手抜き面）

【武道】	
ア 柔道	
イ 剣道（本校選択）	
ウ 相撲	
※ア～ウから選択	
相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開することができる。	
<3年次>	
構え	相手の動きの変化に応じて自然体で中段の構え
足さばき	相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作
基本打突	相手に対しての距離、応じ技への発展
しかけ技	二段の技（小手一胴、面一面）
	引き技（引き小手）
	出ばな技（出ばな面、出ばな小手）
	払い技（払い面、払い小手）
応じ技	すり上げ技（小手すり上げ面）

### (3) 生徒の実態（1組19名、2組18名、特別支援学級1名、計38名）

保健体育の学習に対する意欲は高く、明るく前向きに取り組む事ができる。武道「剣道」に関しては、1年時に全員が授業で経験している。また、事前アンケートの結果から、剣道が「とても好き」が3人、「好き」が11人、「嫌い」が6人であった。「どちらとも言えない」と答えた生徒が17人おり、剣道に対して肯定的でもなく、否定的でもない様子が伺える。「どんな時に楽しいと思えますか？」という質問には、「自分から打った技が打てたとき」「試合に勝ったとき」と答えた生徒が多く、技の習得や試合の場面で楽しさを感じたいということが分かる。また、「どのような力を高めたいか？」に対しては、「自分から打つ技」「礼儀作法」が多く、技能を身につけて技を決めたいという意欲的な姿勢が伺われる。

### 〈剣道に関するアンケート結果〉 ※未回答1名

Q1. 剣道は好きですか？	とても好き（3人） 好き（11人） どちらともいえない（17人） 嫌い（6人） とても嫌い（0人）
Q2. 剣道でどんな時に楽しいと思えますか？（複数回答）	自分から打った技が打てたとき（27人） 試合に勝ったとき（25人） 仲間と力を合わせたり、声を出し合ったりして練習ができたとき（13人） 礼儀作法がきちんとできたとき（12人）
Q3. 剣道でどのような力を高めたいですか？（複数回答）	自分から打つ技（28人） 礼儀作法（27人） 総合的な体力（23人） 防御の技能（17人） 仲間とうまくコミュニケーションを図ることができる（14人）

### 指導観

『楽しさと喜びを実感し、自主的に運動に取り組む生徒の育成』  
 ～思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりを通して～

(4) 指導観  
 指導に関しては、菊池郡市中体研の研究テーマを受け、以下のことに留意する。

### ■授業づくりの視点1 学習指導過程の工夫

①単元計画の工夫  
 ○オリエンテーション時を中心に剣道が「剣の理法の修練による人間形成の道」であることを伝え、我が国固有の文化と伝統的な考え方があることをおさえる。

○学習の見通しを持たせるために単元計画を配布し、「容易→難しい」「遅い動き→速い動き」「その場で行う→移動しながら行う」、「基本→応用」といった原則を具体化させる。  
 ○必要以上の反復をなくし、効率化を図るとともに、飽きさせない工夫を行う。段階に応じた実践的な学習（ゲーム的活動、基本試合、簡単な試合等）を取り入れ、初めて剣道に触れる生徒であっても、「できる」「分かる」楽しさを味わうことができるようにしたい。

### ■授業づくりの視点2 言語活動の充実

②スキル・ウォームアップの推進  
 ○武道の特性や文化に触れることを通して、礼法、マナーなどが身に付くだけでなく、対人的な動きを中心とした全身運動であり、瞬発力、敏捷性、巧緻性など体力を総合的に高めることができる。

①協働的な学習の推進  
 ○生徒同士の教え合い活動が充実するように、動きのポイントを言葉に表した「学習言葉」を用いる。また、その学習言葉をボードにまとめ、活用しやすいようにする。  
 ○動きのイメージが持ちにくい生徒に、資料の提示や模範演技をして視覚的に分かりやすいようにする。また、サッカー部やサ

○健康・安全に気を配って剣道を学ぼうとする態度を評価規準に盛り込み、積極的に評価していく。  
 ○基本技能が身につくようなスキルウォームアップメニューを作り、強度、時間を変えながら、より効果的な技能定着をめざす。

○毎時間のまとめでは、グループや個人で学習のねらいについての振り返りを話し合わせたり、よい動きをしていた生徒を紹介したりして、学習の達成状況や、基礎的・基本的な動きのポ

### 3 単元の目標

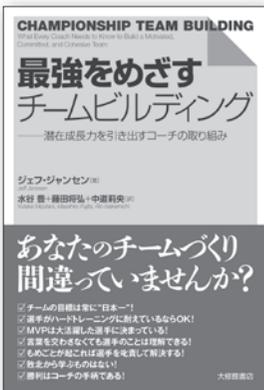
① 技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技ができるようにする。（技能）  
 ② 剣道の学習に積極的に取り組み、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。（関心・意欲・態度）  
 ③ 礼に代表される伝統的な考え方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（知識、思考・判断）

① 健康・安全に気を配って剣道を学ぼうとする態度を評価規準に盛り込み、積極的に評価していく。  
 ○ ICT（情報通信技術）を活用し、主に自分の動きをイメージできずに技能面において課題を見つけることが苦手な生徒に対して分かりやすく伝える。課題設定と判断基準を明確にすることで、生徒が取り組みやすく、意欲的に取り組めるようになっていく。

優勝をねらうチームに共通する特徴とは？

# 最強をめざす チームビルディング

CHAMPIONSHIP TEAM BUILDING  
What Every Coach Needs to Know to Build a Motivated, Committed, and Cohesive Team



潜在成長力を引き出すコーチの取り組み

ジェフ・ジャンセン [著] 水谷 豊、藤田将弘、中道莉央 [訳]

チームが「共通目標に向かって」「選手が「コミットしている」など、チャンピオンチームには共通するいくつかの特徴が備わっている。それらをどのように育んでいくのか、コーチの手腕が問われるところである。本書は、スポーツ強豪校のさまざまな取り組みを紹介しながら、チームづくりのあるべき姿を提案する。

【主要目次】第1章 チームワークの大切さ / 第2章 チームづくりにはなくてはならないもの / 第3章 チームの共通目標 / 第4章 コミットメント / 第5章 共通の目標へのコミットメント / 第6章 特別な役割 / 第7章 明瞭なコミュニケーション / 第8章 前向きな対立 / 第9章 選手の結束 / 第10章 信頼されるコーチング

## 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 ☎03-3868-2651 (販売部) <http://www.taishukan.co.jp>

# スポーツ戦略論



●A5判・320頁  
定価=本体2,600円+税

（多様な実践事例からスポーツ戦略を議論する）

「戦略」という言葉は、経済戦略、経営戦略、人事戦略のように社会一般で多岐にわたって使用されているが、スポーツにおいては明確な定義はいまだなされていない。そこで、本書ではサッカーを主な対象として、多様な立場に立つ筆者による実践事例から共通法則を取り出すことで、「スポーツにおける戦略」という現象を帰納的に論じた。

【主要目次】第1章 スポーツ戦略論の基本フレーム / 第2章 スポーツ戦略の実態 / 第3章 スポーツ戦略の動態 / 第4章 スポーツ戦略の諸相 / 終章 現状の課題と戦略論の将来像

スポーツにおける戦略の多面的な理解の試み  
上田滋夢・堀野博幸・松山博明 [編著]